

事業者排出量削減報告書

(あて先) 京都府知事 住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地) 本社：東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー 店舗：京都府京都市中京区河原町通三条下ル 大黒長51 河原町三条店 他93店舗	氏名(法人にあっては、名称及び代表者の氏名。記名押印又は署名) <div style="text-align: center;"> 東京都新宿区西新宿六丁目5番1号 日本マクドナルド株式会社 代表取締役 原田永幸 </div> <div style="text-align: right; font-size: small;"> 日本マクドナルド株式会社 コーポレートリレーションズ 電話 03-6911-5750 </div>
---	---

京都府地球温暖化対策条例第19条の規定により提出します。

特定事業者の主たる業種	飲食小売業 ハンバーガー・レストラン・チェーンの経営並びにそれに付随する一切の事業					
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））					
計画期間	平成 18年 4月 ~ 平成 20年 3月					
基本方針	エネルギーマネジメントの継続的な強化、及び省エネルギー機器・設備の導入により基準年に対して店舗原単位で5%以上の削減を目指す。					
推進体制	レストランサポート部が中心となり、環境部を含めた関係部との連携により計画を推進する。					
年度ごとの具体的な取組及び措置	年度	設備、対象、工程等	措置内容			
	H18~H19	電圧降下装置 導入	H17からH18にかけて9店舗導入			
	H18~H19	GHP導入、入換え	H18年度で7店舗導入			
	H19	電圧降下装置 導入	H19年度で9店舗導入			
		GHP導入、入換え	H19年度で3店舗導入			
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度(実績) (17)年度 (二酸化炭素換算(t))	目標年度(計画) (19)年度 (二酸化炭素換算(t))	削減率 (計画) (%)	報告年度(実績) (19)年度 (二酸化炭素換算(t))	削減率 (実績) (%)
	A 事業所等排出区分	9,612 t	9,126 t	-5.1 %	11178.5 t	16.3 %
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%
	C その他排出区分	t	t	%	t	%
	排出合計	*1 9612 t	*2 9,126 t	-5.1 %	*4 11178.5 t	16.3 %
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度(計画)			報告年度(実績)	
		取組量等	(二酸化炭素換算(t))		取組量等	(二酸化炭素換算(t))
	森林の保全及び整備	(整備面積) ha	(吸収量) t	/	(整備面積) ha	(吸収量) t
	府内産の木材の利用	(利用量) m ³	(削減量) t		(利用量) m ³	(削減量) t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	(発電量) kWh	(削減量) t		(発電量) kWh	(削減量) t
		(熱供給量) GJ	(削減量) t		(熱供給量) GJ	(削減量) t
	グリーン電力の購入	(購入量) kWh	(削減量) t		(購入量) kWh	(削減量) t
削減量等合計	*3 t		*5 t		t	
差引排出量 (排出合計-削減等合計)	*1 9612 t	*2(*3) 9126.0 t	-5.1 %		(*4)-(*5) 11178.5 t	16.3 %
特記事項	増加要因としては売上の増加(基準年対比+19.75%)、営業時間の延長24時間店舗が34店舗などがあげられる。標準店舗数をベースとする店舗原単位で見ると、基準年が148.56t/、平成19年度が159.01t/ であり7.0%の増となっている。平成19年以降はGHPの入れ替え、及び省電力装置等の導入により削減を目指す。					
連絡先	担当部署					
	担当者氏名					
	住所					
	電話番号					
	ファクシミリ番号					

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」の実績については、計画期間中の実績の累計を記入してください。
 (例) グリーン電力の購入による温室効果ガスの削減実績が18年度5トンで19年度10トンの場合、19年度の報告書の実績については18年度と19年度の実績を累計15トンと記入
 5 「特記事項」には、平成2年度(1990年度)を基準とした排出量の対比やエネルギー原単位CO₂排出量、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達の使用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。